

報道発表資料の配信日時 12月13日 (水) 15時00分

| 発表項目 (行事名) | 令和5年度(2023年度)北方領土中学生作文コンテストの実施結果について | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|----------------------------|-------------------|-----------------|---------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 概要 | <p>令和5年度(2023年度)北方領土中学生作文コンテストの実施結果を発表します。</p> <p>1 募集期間 令和5年(2023年)7月24日(月)から10月31日(火)まで</p> <p>2 応募作品数 259作品(14校)</p> <p>3 選考会概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催年月日</th> <th>選考員(作文選考の専門家、北方領土関係団体など5名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">令和5年 11月20日(月)</td> <td>北海道国語教育連盟 米田 朋弘</td> </tr> <tr> <td>(独)北方領土問題対策協会 竹内 啓介</td> </tr> <tr> <td>(公社)北方領土復帰期成同盟 後藤 博宣</td> </tr> <tr> <td>(公社)千島歯舞諸島居住者連盟 勝部 倫行</td> </tr> <tr> <td>北海道総務部北方領土対策本部 千葉 真一郎</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 選考結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞: 1名 ・優秀賞: 4名 ・佳作: 5名 ・奨励賞: 11名 <p>5 入賞作品の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道ホームページに入賞作品を公開(令和5年12月13日) (URL: https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrt/173233.html) ・北方領土中学生作文コンテスト入賞作品集(冊子)の配布(令和6年3月頃) ・新聞広告に最優秀賞作品を掲載(令和6年2月7日予定) ・YouTubeに最優秀賞受賞者による朗読動画を掲載(令和6年3月頃) | 開催年月日 | 選考員(作文選考の専門家、北方領土関係団体など5名) | 令和5年 11月20日(月) | 北海道国語教育連盟 米田 朋弘 | (独)北方領土問題対策協会 竹内 啓介 | (公社)北方領土復帰期成同盟 後藤 博宣 | (公社)千島歯舞諸島居住者連盟 勝部 倫行 | 北海道総務部北方領土対策本部 千葉 真一郎 |
| 開催年月日 | 選考員(作文選考の専門家、北方領土関係団体など5名) | | | | | | | | |
| 令和5年 11月20日(月) | 北海道国語教育連盟 米田 朋弘 | | | | | | | | |
| | (独)北方領土問題対策協会 竹内 啓介 | | | | | | | | |
| | (公社)北方領土復帰期成同盟 後藤 博宣 | | | | | | | | |
| | (公社)千島歯舞諸島居住者連盟 勝部 倫行 | | | | | | | | |
| | 北海道総務部北方領土対策本部 千葉 真一郎 | | | | | | | | |
| 参考 | <p>【添付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度(2023年度)北方領土中学生作文コンテスト入賞者一覧 ・最優秀作文 | | | | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 他のクラブ との関係 | <p>同時配付 同時レク</p> <p>渡島総合振興局記者クラブ、十勝総合振興局記者クラブ、根室記者クラブ</p> |
|---------------|--|

| | |
|-------------|---|
| 担当 (連絡先) | <p>総務部北方領土対策本部北方領土対策課啓発係(担当:千葉課長補佐)</p> <p>TEL ダイヤルイン 011-204-5069</p> <p>内線 22-753</p> |
|-------------|---|

令和5年度（2023年度）北方領土中学生作文コンテスト入賞者

| 賞 | 市町村名 | 氏名 | 学校名 | 学年 | 題名 |
|------|------|--------|------------|----|--------------------|
| 最優秀賞 | 標津町 | 大垣 結愛 | 標津町立川北中学校 | 2 | 未来へ～今こそ交流の架け橋を繋ぐ時～ |
| 優秀賞 | 芽室町 | 和田 花梨 | 芽室町立芽室西中学校 | 2 | 国境なきエトピリカのように |
| 優秀賞 | 北斗市 | 神 胡々菜 | 北斗市立大野中学校 | 2 | 北方領土について考えたこと |
| 優秀賞 | 音更町 | 高田 莉央 | 音更町立共栄中学校 | 3 | 想いを受け継ぐ |
| 優秀賞 | 北斗市 | 小林 朝仁 | 北斗市立大野中学校 | 2 | 北方領土について |
| 佳作 | 函館市 | 鷲田 陽翔 | 函館市立桔梗中学校 | 2 | 今自分達にできること |
| 佳作 | 札幌市 | 矢野 日真里 | 札幌市立厚別北中学校 | 1 | 北方領土の問題点 |
| 佳作 | 釧路市 | 伊藤 悠緋 | 釧路市立景雲中学校 | 3 | 見えないラインの向こうへ |
| 佳作 | 大樹町 | 島崎 海奈 | 大樹町立大樹中学校 | 1 | 北方領土について |
| 佳作 | 根室市 | 立野 恋 | 根室市立光洋中学校 | 1 | 北方領土問題とこれからの日本 |
| 奨励賞 | 札幌市 | 堀江 勇伍 | 札幌市立厚別北中学校 | 1 | 北方領土の明るい未来のために |
| 奨励賞 | 北斗市 | 小林 華蓮 | 北斗市立大野中学校 | 2 | 北方領土について |
| 奨励賞 | 北斗市 | 竹端 恵彩 | 北斗市立大野中学校 | 2 | 北方領土の共存 |
| 奨励賞 | 北斗市 | 高橋 和花 | 北斗市立大野中学校 | 2 | 私達の北方領土 |
| 奨励賞 | 釧路市 | 大谷 百音 | 釧路市立景雲中学校 | 1 | 北方領土の歴史 |
| 奨励賞 | 釧路市 | 竹村 祥希 | 釧路市立景雲中学校 | 1 | 北方領土について |
| 奨励賞 | 大樹町 | 堀川 智哉 | 大樹町立大樹中学校 | 1 | 北方領土を返還してもらうために |
| 奨励賞 | 大樹町 | 小笠原 壮翼 | 大樹町立大樹中学校 | 1 | 元島民の思い |
| 奨励賞 | 大樹町 | 山本 凜 | 大樹町立大樹中学校 | 2 | 私たちにできること |
| 奨励賞 | 大樹町 | 松本 花香 | 大樹町立大樹中学校 | 2 | 北方領土問題について |
| 奨励賞 | 音更町 | 横澤 紗映 | 音更町立共栄中学校 | 3 | 私達の使命 |

【最優秀賞】

未来へ～今こそ交流の架け橋を繋ぐ時～

標津町立川北中学校

2年 大垣 結愛

「近くて遠い島、北方領土」

北海道の東の端、標津町に住む私にとって、何度も耳にしてきた言葉。

野付半島から国後島までの距離はわずか十六キロメートル。晴れた日には、島の姿が肉眼ではっきりと見える。しかし、現在、島との交流は途絶えたまま。気軽に訪問することも叶わない。私達にとってその名の通り「近くて遠い島」なのだ。

一九四五年からロシアに不法に占拠されている北方領土。あれから約七十八年。返還されぬまま月日は流れ、今もなお、多くの人々が島への思いを抱えたまま暮らしている。年を追うごとに高齢化して行く元島民の思い、北方領土周辺の海で危険と隣り合わせに漁業を営む漁師の思い、小さい頃から島を眺めながら育ってきた私たち地域住民の思い。たくさんの人々が、島の未来への期待と北方領土の早期返還を日々願いながら暮らしている。

三十一年前から始まった交流の架け橋「ビザなし交流」。北方領土で暮らすロシア人と私達日本人との心の交流の場。この交流により、元島民は再び自分の生まれた故郷の地を訪れ、祖先への祈りも捧げることができるようになった。そしてまた、たくさんのロシア人が日本を訪れ、日本の文化や風習に親しみ、互いに相互理解を深めてきた。私の母や叔父も島を訪れた経験がある。私の祖母も、交流会に参加し、数多くのホームステイを受け入れ、交流事業に積極的に関わってきた。そして、直接ロシア人と会話し、お互いの考えやお互いの気持ちを通わせることで、北方領土に暮らすロシア人との絆を深めてきた。私も小さい頃から交流会に参加してヨサコイを披露し、一緒に縁日や会食で交流を続けることで、北方領土に関心をもち、そこに住む人々と心の交流を続けてきた。祖母と母、弟と家族で参加する交流会は、私にとって、北方領土返還に繋がる大切な機会でもあった。

しかし、今、北方領土に関わる全ての活動が止まっている。コロナウイルスの蔓延、ロシア政府の情勢、日本としての立場。ビザなし交流や北方墓参も中止が重なり、漁業関係については多大な影響が出ている。そんな中、ある日突然、貝殻島にある灯台が白く塗り替えられたのは最も衝撃的な出来事であった。元島民にとって、どんなに悲しい思いだろう。現在、元島民だった人達は皆、高齢化している。島の問題を解決するには今すぐにでも解決に向けて一歩前に進む姿勢が必要である。行政の立場として、元島民の立場として、そしてこれからの未来を生きる私達の立場として。私達が今できることは何なのだろうかと、一人一人が考え行動する必要があるのだ。このまま島との交流を途絶えさせてはいけない。だからこそ、再び交流の架け橋を復活させ、北方領土返還への早期解決の道を繋いでいくことが今、求められているのだと私は考える。